

【公開授業】被災地の「復興」を進めるために、自分には何ができるのだろうか…？

公正な価格とは…？ 価格はどのようにして決めるべきか…？

東京学芸大学附属国際中等教育学校

教諭 古家正暢

vegeetam@u-gakugei.ac.jp

1. 日 時 2013年 9月 30日 (月) 12:45～14:25
2. 対 象 東京学芸大学附属国際中等教育学校 3学年 (124名)
3. 主 題 名 被災地の「復興」を進めるために、自分には何ができるのだろうか…？
4. 主 題 設 定 の 理 由

2013年夏、有志生徒を募り「石巻・女川被災地スタディーツアー」を実施した。行く先々で被災地の方々に温かく迎えていただいた。「突然、記憶が前に戻ることがある。喧嘩別れしたまま亡くなった友達の夢を見ることがある」と涙ながらに語った石巻高校ラグビー部の生徒。「情報ギャップに気づく力(美談というか良いことばかりが報道されて縁の下の力持ちは無視される傾向にある)」「そっちも大変だから…という『お互いさま』意識が大切」と真壁病院の看護部長さん。「生産から加工・販売まで第一次+二次+三次=第六次産業を目ざさなければ、今後の三陸の水産業は成り立っていかない」と語る雄勝でホタテ養殖をする漁師さん。「雪・海・11日と聞くだけで、あの日のことを思い出してねえ」と飯野川仮設住宅のおばあちゃん。「生きるか死ぬかという時に赤字だなんて言ってもらえない。ウチの冷蔵庫に原料があるんだから商品にして、みなさんに配るのは当たり前でしょ…」と熱く語ってくれた蒲鉾：高政の若大将。

この返礼は、生徒とともに「被災地のために、自分に何ができるか」を追求していくことだと確信しました。「がんばろう石巻!」「がんばろう女川!」ではなく、「がんばろう国際中等教育学校!」「がんばろう自分!」だと確信しました。

そこで今回、本学とみずほフィナンシャルグループの金融教育共同研究を公開するにあたり、被災地の水産業に焦点をあて、被災地：石巻市雄勝の漁師さんに聞いた話を授業の核に据えることとした。雄勝のホタテ漁師は語った。「ホタテの価格は、需要や収穫量などに基づくセリ(市場)で価格が決定するのではなく、初めから大手スーパーがホタテの小売価格を〇〇円と決定し、そこからさまざまな流通経費を差し引いた残額のみが生産者価格になる」と。この被災地におけるホタテ価格の決定は公正と言えるのか…？ そもそも価格はどのようにして決められるべきか…？ この現実を前にして、私たち消費者は、どのようなことができるのかに迫る授業を実施したいと考えた。

また、住民の8割が住居を失い、多くの人々が仮設住宅で暮らす宮城県女川町。そこで蒲鉾「高政」を経営する高橋正樹様(社長室長)をゲストティーチャーとしてお迎えし、東日本大震災(2011年3月11日)の発生から今日までの激動の様子をお話いただく中で、被災地の復興にあたって必要なこととは何かを考えたい。特に、震災後、高橋さんがとられた行動「生きるか死ぬかという時に赤字だなんて言ってもらえない。ウチの冷蔵庫に原料があるのだから商品にして配るのは当たり前」と避難所に温かい蒲鉾を配布したこと。地元復興のため、従業員を一人も辞めさせないという決意とともに新たに社員70名を採用したこと、復興の先鞭をきり走り続ける工場経営についてもお話を伺いたいと考えた。

5. 本時の目標

- さまざまな資料およびゲストティーチャーの話から被災地の生活に関心をもつ。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 水産物の価格の決定方法を知る。
(社会的事象についての知識・理解)
- 被災地の水産物・水産加工物の公正な価格の決定方法を考える。(社会的な思考・判断・表現)

6. 本時のキーワード

- 価格の決定 ○公正な価格 ○被災地の水産業 ○持続可能な社会 (*ESD)

7. 本時の Essential Question

被災地の「復興」を進めるために、自分には何ができるのだろうか…?

8. 本時の展開

	学習活動	教師の発問・指示● と 予想される生徒の反応△
導入 10	<p>★本日の授業のゲスト紹介</p> <p>☆石巻市雄勝のホタテ漁の写真を見て</p> <p>☆価格の決定法</p>	<p>宮城県女川町蒲鉾：高政の社長室長：高橋正樹様です。</p> <p>今年の夏、ボランティア部が企画した東日本大震災被災地スタディーツアーで大変お世話になった方です。</p> <p>●2013年夏、石巻市雄勝湾でのホタテ漁を見てみましょう。</p> <p>●スタディーツアーで、水揚げ早々のホタテを船上で食べた人の感想を聞いてみましょう…。</p> <p>△おいしかった… 甘かった… プリプリだった…</p> <p>●価格とは、どのような要素で決まるものだと学びましたか… グラフを用いて説明していたのですが…</p> <p>△需要 と 供給</p> <p>●需要と供給とで釣り合った価格を何と呼ぶのですか…</p> <p>△均衡価格</p> <p>●みんなの前で、需要供給曲線について、説明できる人はいますか… (*遠慮・牽制から誰も出てこないことが予想される)</p>
展開 I 20	<p>☆ホタテの価格の決定法</p> <p>☆「せり」</p> <p>★蒲鉾の原料となる魚やホタテの見立て</p>	<p>●ところで、石巻市雄勝で水揚げされたホタテの価格はどのようにして決められているのだろうか…</p> <p>△需要と供給のバランス…</p> <p>●では、どうやって需要と供給のバランスとしての均衡価格がわかるのだろうか…</p> <p>*「せり」というコトバは出てこないか…???</p> <p>●「せり」のようすを見てみましょう。</p> <p>「せり」では、どのように価格が決まるのだろうか…?</p> <p>・ホタテを買う人の気持ちは…</p> <p>△おいしい 安い 新鮮 品質が良い …</p> <p>・ホタテを売る人の気持ちは…</p> <p>△少しでも高く (新造船・燃料費・筏代・稚貝代)</p> <p>★では、ここで、プロの目から見た良い魚 (吉次・石持) 良いホタテとは、どのようなものなのでしょう…?</p> <p>⇒高橋さんにお答えいただく。</p> <p>●この「せり」で決まった価格が販売価格となるのか…</p> <p>△消費地までの輸送費 (人件費・燃料費)</p>

		<p>△スーパーマーケットの販売費（人件費・光熱水費・設備費）</p> <p>●漁港近くの市場「せり」価格は、スーパーマーケットで販売される時、どのくらい上がっているのだろう…</p> <p>△1.5倍くらい… 2倍… 3倍</p> <p>●ここで、水産庁が出している『水産白書』を見てみよう。</p> <p>①「水産物平均」及び「青果物平均」の流通経費等の割合を見てみよう。どのような違いが読み取れるだろうか…？</p> <p>△漁業関係者の受取価格が農業関係者に比べて低い。</p> <p>●なぜ、漁業関係者の受取価格は農業関係者に比べて低いのだろう…</p> <p>●続いて、「生鮮水産物の流通経路」を見てみよう。</p> <p>価格は、漁業者→卸売業者→卸売業者→消費者へと変遷する中で上昇していく。みなさん、確認しましたね。</p>
<p>展 開 II 20</p>	<p>☆石巻雄勝の漁師さんから聞いた話を紹介</p> <p>☆「第6次産業」とは…</p> <p>☆被災地の水産業の復興を考える。</p> <p>Essential Questionの提示</p>	<p>●漁師さんの話を再現する。</p> <p>漁「実はホタテの価格は需要供給に関係なく決まるんだよ。漁獲高・水揚げ量に関係なく決まるんだ」</p> <p>私「どういうことですか…」</p> <p>漁「大手スーパーマーケットが、漁獲量・品質などに全く関係なく1kg＝〇〇円と決めてしまった。」</p> <p>私「学校で教えていることは机上の空論ということですね。」</p> <p>漁「まあ、そういうことだね。」</p> <p>●「ダイロクジサンギョウ」というコトバを聞いたことがありますか…。「第6次産業…何だと思えますか…」</p> <p>△……………（*想像つかないのではないかな）</p> <p>●漁師さんは「これからは第6次産業を考えなければ、生き残っていけない。」と強調した。第6次産業とは第1次産業＋第2次産業＋第3次産業＝第6次産業。つまり、1次：水産業＋2次：水産加工業＋3次：販売を一手に引き受けなければ利潤を生み出すことが難しいと言うのです。</p> <p>●被災地：東北に対して「がんばろう東北」というコトバをよく聞くけれど、被災した漁師さんに「第6次産業」まで求めることは妥当なのだろうか。ここに正義はあるのだろうか…</p> <p>本授業の Essential Question</p> <p>●被災地の「復興」を進めるために、自分には何ができるのだろうか…？</p>

参考文献 考えてみよう「これからの暮らしとお金」

東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクト 2011

時	学習活動	教師の発問・指示● と 予想される生徒の反応△
導入 5	★ゲストティーチャー：高橋様紹介	<p>本日のゲストティーチャーを、被災地スタディーツアー2013夏の企画運営委員が紹介する。「宮城県女川町蒲鉾：高政の社長室長：高橋正樹様です。」</p> <p>●なぜ、高橋様を東京までお呼び立てしたのか…？</p> <p>●なぜ、5回生にぜひとも逢わせたいと思ったのか…？</p> <p>⇒生き方・考え方がカッコイイ！</p> <p>心を揺さぶられたコトバ</p> <p>「生きるか死ぬかという時に赤字だなんて言っていられない。ウチの冷蔵庫に蒲鉾の原料があるんだから、商品にして配るのは当たり前でしょ…。」</p>
講演 30	☆宮城県女川町蒲鉾：高政の社長室長：高橋正樹様の講演	<p>●2011.03.11.「東日本大震災」から現在まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の約8%が亡くなった女川 ・津波の脅威 デマとの戦い ・身近な死 救うことができなかった「いのち」 ・被災者でありながらの救援活動 ・避難所としての女川原発 ・復興のための新規採用 ・女川災害 FM 等々 <p>女川「高政：万石の里（2013/08/09）」でお聞きしたお話を基調としたものをお願いする。</p>
質疑 応答 10	☆高橋様との質疑応答 ☆高橋様へのお礼	<p>●講演を聴いて感じたこと・疑問に思ったことを高橋さんに話してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を感じたか… ・一番心に残った話は… <p>（*遠慮・牽制から誰も挙手がない場合には指名する）</p> <p>●生徒代表より、講演を聴いての感想とともにお礼を述べる。</p>
総括 5	☆Essential Questionの提示	<p>●本日の授業の前半では、被災地の水産業の「復興」を進めるためには、何ができるのだろう…？と考えてきました。後半には被災地：女川で水産加工業である蒲鉾「高政」社長室長の高橋正樹様からご講演いただきました。あなたは何を感じましたか…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の「復興」を進めるために、自分には何ができるのだろう… 意見文をまとめて提出してください。